

2024年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。				取扱い自組治団体等	国際版画美術館は版画に特化した世界的にも珍しい美術館であり、版画の鑑賞ばかりでなく、版画制作や美術作品の展示といった利用も可能です。なかでも版画制作を行う版画工房を一般に開放している公立美術館は、首都圏では当館と横浜美術館のみであり、創作活動に資する環境を提供する場として大切に運営しております。			
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。								
基本情報	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例								
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称		町田市立国際版画美術館		
	利用料金収入 (単位:千円)	20,253	22,491	17,315	建設年月日		1986年8月1日		
	受益者負担比率	5.8%	6.5%	4.9%			2022年度	2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率		36.9%	38.2%	39.4%

2.2023年度末の総括と2024年度状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆施設利用者が2022年度よりも約2,900人増加し、新型コロナウイルス感染症流行前の状況に戻りました。SNSの積極的な活用などを通じて平素から美術に親しみのない層にも版画に興味を持ってもらい、国際版画美術館の魅力を情報発信して、来館者の満足につながる取り組みを図ることが肝要です。◆観覧料やミュージアムショップでの支払い等の利便を図るため、キャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。◆芹ヶ谷公園「芸術の杜」構想に基づき、より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらえる施設にする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、収蔵品を活用した魅力ある展覧会になるよう取り組みます。◆キャッシュレス決済の導入により、施設利用者の利便を考慮した施設になるよう検討します。		◆芹ヶ谷公園「芸術の杜」構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。	
取組状況	○	個別取組	○
		○	XおよびInstagramによる情報発信を、2023年度の526回から51回増やし577回実施し、国際版画美術館の魅力発信に努めました。
		○	企画展示及び特集展示を計11回開催し、観覧者数は105,283人となり、目標の93,000人を上回りました。
		○	2024年10月からキャッシュレス決済の運用を開始し、来館者の利便性向上を図りました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	96,000	110,000	93,000	85,000	85,000	企画展および特集展示の観覧者数の合計
		実績	108,844	119,027	105,283		(2025年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	22,500	22,500	25,947	12,160	12,160	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	20,253	22,491	17,315		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆(仮称)国際工芸美術館工事開始のため企画展の開催回数が2023年度より1回減少することを想定して、展覧会観覧者数の目標を2023年度よりも少ない93,000人としたが、魅力的な展覧会を開催し、積極的に情報発信した結果、観覧者数は105,283人となり、目標を12,283人上回りました。◆観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入については、企画展の開催回数及び日数が減少したことによる観覧者数減少のため、2023年度と比べて5,176千円減少しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	124,506	114,802	116,689	1,887	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	9,912	7,090	5,720	△ 1,370	保険料	0	0	0	0
物件費	146,216	156,089	144,328	△ 11,761	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	105,864	108,283	107,831	△ 452	都支出金	0	0	11,612	11,612
維持補修費	3,345	5,102	3,882	△ 1,220	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	20,253	22,491	17,316	△ 5,175
補助費等	3,445	3,954	3,165	△ 789	その他	11,696	13,711	9,020	△ 4,691
減価償却費	56,285	56,285	55,856	△ 429	行政収入 小計(a)	31,949	36,202	37,948	1,746
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 318,591	△ 309,976	△ 313,763	△ 3,787
賞与・退職手当引当金繰入額	16,743	9,946	27,791	17,845	金融収支差額 (d)	△ 190	△ 167	△ 143	24
行政費用 小計 (b)	350,540	346,178	351,711	5,533	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 318,781	△ 310,143	△ 313,906	△ 3,763
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	10,133	0	△ 10,133
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	10,133	0	△ 10,133	当期収支差額 (e)+(h)	△ 318,781	△ 300,010	△ 313,906	△ 13,896

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	総合管理委託料 77,441千円 光熱水費 18,330千円 備品購入費 4,573千円 など	事業協力謝礼 801千円 講師謝礼 831千円 「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金 750千円 など
主な増減理由	屋外彫刻修繕完了により備品修繕費が10,321千円減少。版画制作機器購入により備品購入費が4,041千円増加。	企画展の開催回数減などにより事業協力謝礼が976千円減少。講師依頼数増加により講師謝礼が195千円増加。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	給水ポンプ取替修繕 1,210千円 空調制御機器修繕 1,078千円 給水ポンプ配管修繕 440千円 など	物品売払収入 5,954千円 受託販売手数料 874千円 広告掲載料 265千円 など
主な増減理由	緊急性の高い項目のみ実施したことから施設修繕料が1,808千円減少。	企画展の観覧者数減少により物品売払収入が174千円減少。芸術文化振興基金助成金の申請を見送ったことにより3,000千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2024	156,439	2,248	228	企画展の観覧者数減少のため、入館者1人当たりのコストは228円増加しました。
		2023	171,406	2,020	△ 61	
		2022	168,475	2,081	△ 644	
開館1日あたりコスト	日	2024	293	1,200,379	72,763	電気設備工事のための一時休館により開館日数が減少し、開館1日当たりのコストは72,763円増加しました。
		2023	307	1,127,616	△ 17,940	
		2022	306	1,145,556	△ 102,677	

## ④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2023年度末				2024年度末			
A				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	22,913	23,425	512
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	12,967	12,967
事業用資産	有形固定資産	960,427	917,811	△ 42,616	賞与引当金	9,946	10,458
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	2,258,181	2,271,421	13,240	固定負債	161,228	157,477
	建物減価償却累計額	△ 1,560,766	△ 1,616,622	△ 55,856	地方債	73,342	60,375
	工作物(取得価額)	263,012	263,012	0	退職手当引当金	87,886	97,102
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	184,141	180,902
	有形固定資産	0	0	0	純資産	2,499,522	2,465,727
	土地	0	0	0			
	工作物(取得価額)	0	0	0			
インフラ資産	工作物減価償却累計額	0	0	0			
	無形固定資産	0	0	0			
	建設仮勘定	0	0	0			
	その他の固定資産	1,723,236	1,728,818	5,582	純資産の部合計	2,499,522	2,465,727
	資産の部合計	2,683,663	2,646,629	△ 37,034	負債及び純資産の部合計	2,683,663	2,646,629

## ⑤貸借対照表の特徴的事項

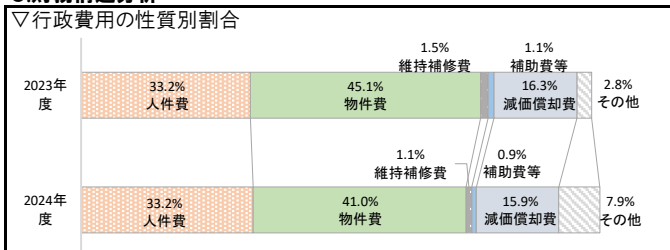
勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,271,421千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,624,706千円 定額運用基金 100,000千円 版画制作機器 4,112千円
主な増減理由	設備機器更新により、13,240千円増加。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	収蔵美術品受贈により1,470千円増加。 版画制作機器購入により4,112千円増加。

## ⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	37,948	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	286,269	社会資本整備等投資活動支出	4,112	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 248,321	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 4,112	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 265,400
				一般財源充当調整額	265,400

## 5.財務構造分析

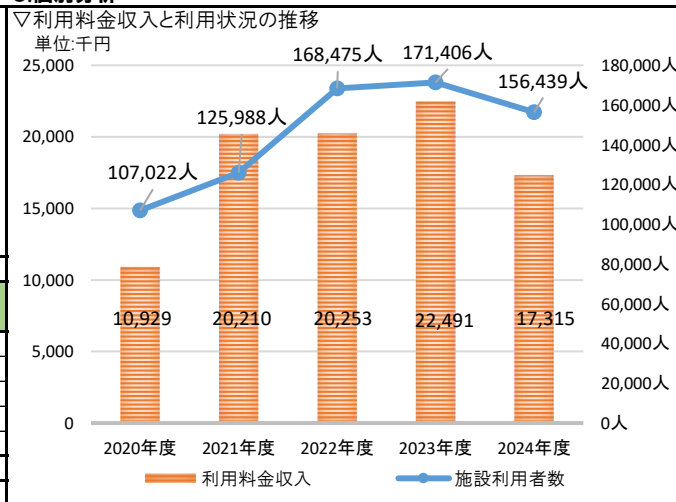


## ▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2024 合計	2023 合計
管理事務	5.9	0.1		0.2	0.2	6.2	5.3
展示事業	4.8	0.9		1.0	0.2	6.9	5.8
ハイビジョン事業						0.0	0.0
普及事業	2.3	0.1		1.3	0.3	3.7	4.0
						0.0	0.0
2024年度 歳出目 合計	13.0	1.1	0.0	1.0	1.7	16.8	15.1
2023年度 歳出目 合計	11.0	1.0	0.0	2.2	0.9	15.1	

## 6.個別分析



## 7.総括

## ①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆展覧会の開催回数や開催日数の減少のため観覧者数の目標を2023年度よりも少ない93,000人としましたが、魅力的な展覧会を開催しSNSでの情報発信を2023年度の526回から577回に増やした結果、観覧者数は105,283人となり目標を12,283人(13.2%)上回りました。◆「幻想のプラムール」展のアンケートでは約95%の方から「良かった」という評価をいただき、多くの方に芸術・文化をお楽しみいただくことができました。◆版画工房及びアトリエにて開催される版画講座や出張授業などを行う学校教育への協力事業には、2023年度と比べ69人(23.7%)上回る359人の方に参加いただきました。

## ②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆SNSを積極的に活用し、幅広く国際版画美術館の魅力発信を行いました。◆展覧会開催回数の減少のため観覧料収入は2023年度の15,176千円から10,307千円となり、4,869千円(32.0%)減少しました。◆10月からキャッシュレス決済を開始したため導入や運用にかかる費用が新規に101千円発生しましたが、ミュージアムショップでの販売商品のうち展覧会の図録を除く商品の売り上げは2023年度の1,498千円から1,632千円となり、134千円(8.9%)増加しました。◆緊急性の高い修繕のみ実施したことから、施設修繕料が2023年度の5,102千円から3,294千円となり、1,808千円(35.4%)減少しました。

## ③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらうため、収蔵品を活用した魅力ある展覧会を実施するとともに、様々な方法でその魅力について情報発信していく必要があります。◆芦ヶ谷公園「芸術の杜」推進事業に基づき、より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらえる取り組みをすることが必要です。◆ミュージアムショップ利用者の拡大と利便性向上のために、商品の販売方法を拡充する必要があります。

## ④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆魅力的な展覧会やイベントの開催を通じて美術を楽しむ人を増やします。 ◆SNSによる情報発信を通じて、文化・芸術都市としての町田市のブランドイメージの向上を図ります。◆国際版画美術館、博物館、美術館整備担当が美術館課として一つになったことを活かし、事務の効率化を図ります。	◆芦ヶ谷公園「芸術の杜」推進事業を具現化し、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆計画的に改修工事を行い老朽化した施設の改善を図ります。◆収蔵品の効率的な管理活用のため、データベースの構築を図ります。

## 2024（令和6）年度・後期 国際版画美術館 作品収集状況

以下の作品が、2025年2月7日開催の2024年度第2回美術資料収集委員会で承認され、収蔵されました。

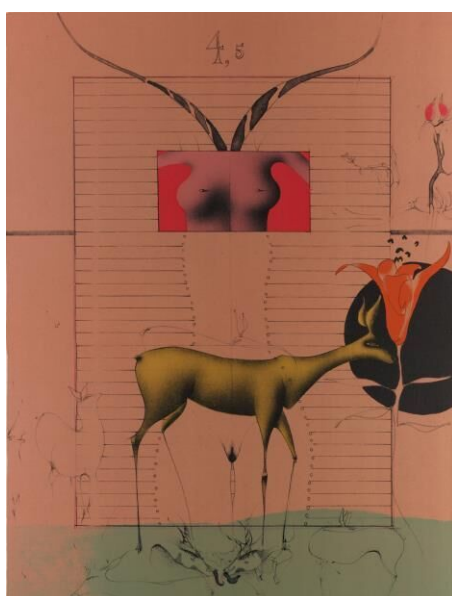
◇寄贈作品			
No	概要	提示予定 作品点数	評価額
1	松下サトル版画作品	21	¥ 630,000
2	ジョ ヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ版画作品	2	¥ 1,200,000
3	オノレ・ドーミエ他 フランス近代版画	213	¥ 2,130,000
4	パウル・ヴンダーリヒ版画作品	49	¥ 2,990,000
合 計		285	¥ 6,950,000



No. 1 松下サトル版画作品



No. 2 ジョ ヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ版画作品



No. 4 パウル・ヴンダーリヒ版画作品



## 2024（令和6）年度 国際版画美術館 事業報告書【展覧会版】

展覧会名	両大戦間のモダニズム：1918-1939 煌めきと戸惑いの時代			担当者名	高野詩織	
会期	2024年9月14日（土）～12月1日（日）			開催日数	68日間	
協賛・後援・協力	なし					
巡回館	なし					
展覧会概要	第一次世界大戦と第二次世界大戦の狭間にあたる「両大戦間」という時代に焦点を当てた、収蔵品を中心とする展覧会。新しい社会への期待感と不安感がせめぎ合う時代を「煌めきと戸惑い」というキーワードで表現し、自動車やアール・デコのファッションなどからインスピレーションを得た現代への賛美ともいえる作品や、戦争の惨禍を深く刻み込んだ作品、近代化への抵抗を表現した作品など約230点を展示。全4章で構成し、フランスを中心に、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本の版画と印刷物を幅広く紹介した。					
ねらい・対象	戦争や経済不安によって国際秩序が揺らいでいる現代、第二次世界大戦の勃発直前にあたる時代が注目を集めている。本展では、社会の変革期に創作活動を続けた名だたるアーティストの版画や、絵本、雑誌等の大衆的な印刷物を展示することで、これらの資料の今日的な意味を考える機会とすることを企図した。					
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数	
	記念講演会	10月12日（土）	両大戦間のファッションを語った ポショワール版画 ―ファッション・プレート史を踏まえて―	能澤慧子氏 （東京家政大学名誉教授）	72	
	こどものための鑑賞会	11月9日（土）		富田めぐみ氏（NP0法人 赤ちゃんからのアートフレ ンドシップ協会代表理事）	29	
	プロムナード・コンサート	9月21日（土）	煌めきの奏者たち	桜美林大学芸術文化学群 玉川大学芸術学部	140	
	ギャラリートーク	9月29日（日） 11月2日（土）		高野詩織（担当学芸員）	65	
	第26回ゆうゆう版画美術館まつり関連イベント	10月27日（日）	ステンシルで作品を完成させよう！	川添愛奈 （美術館教育担当学芸員） 高野詩織	80	
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日		
	800 円	400 円	無料	・初日：9/14 ・文化の日：11/3 ・シルバーデー（満65歳以上無料）：9/25、10/23、11/27		
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、中学生以下
	6,848 人	2,715 人	9,563 人	8,794 人	521 人	248 人
	目標値	9,704 人				
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源		
	4,364 千円	2,596 千円	999 千円	0 千円		
事業経費	・講師謝礼 ・事業協力謝礼 ・著作権使用申請委託料 ・設置・撤去委託料 ・作品額装委託料 ・広告・宣伝委託料 ・ポスター等作成委託料 ・ディスプレイ作成委託料 ・イベント企画運営委託料			110 千円 28 千円 65 千円 721 千円 643 千円 682 千円 3,547 千円 1,138 千円 44 千円	6,978 千円	
主な広報・取材等	【テレビ】「地モトNEWS」（イッツコム） 【雑誌】『美術の窓』、『アートコレクターズ』、『江戸楽』、『散歩の達人』、『ブレーン』、『都政新報』他 【ウェブ】「美術手帖」、「美術散歩」、「Fashion Press」、「IM（インターネットミュージアム）」、「MORE」他					

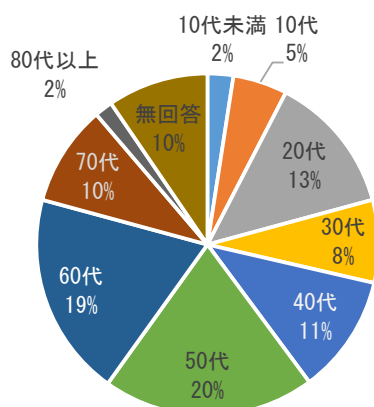


## 2024（令和6）年度 国際版画美術館 アンケート集計結果【両大戦間のモダニズム】

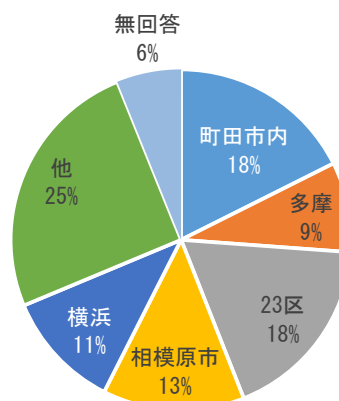
開催期間：2024年9月14日（土）～12月1日（日）

回答者数： 409 人（総入館者数：9,563人 アンケート回収率： 4.3%）

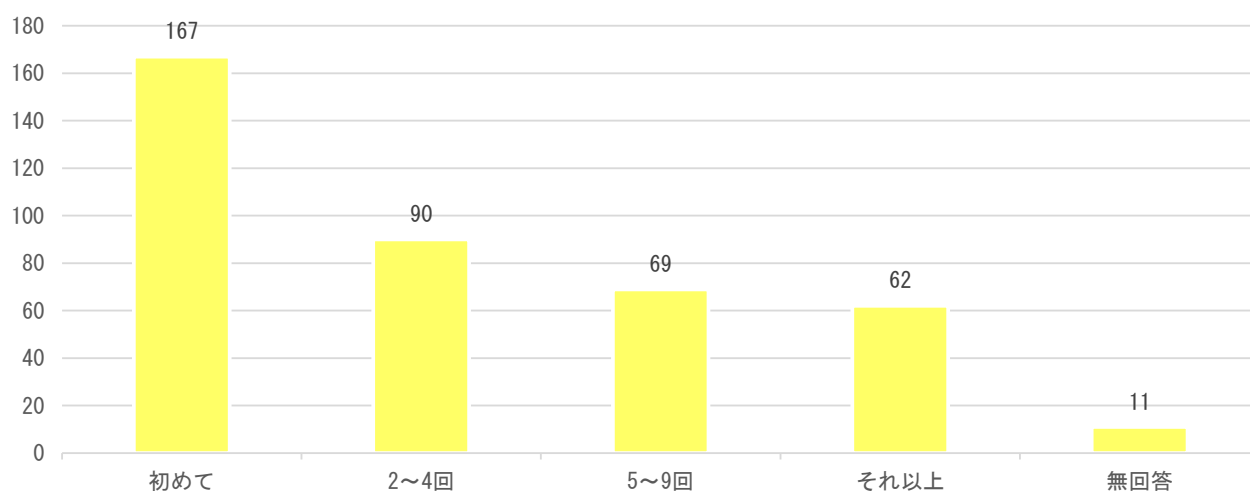
## 1. 年齢層



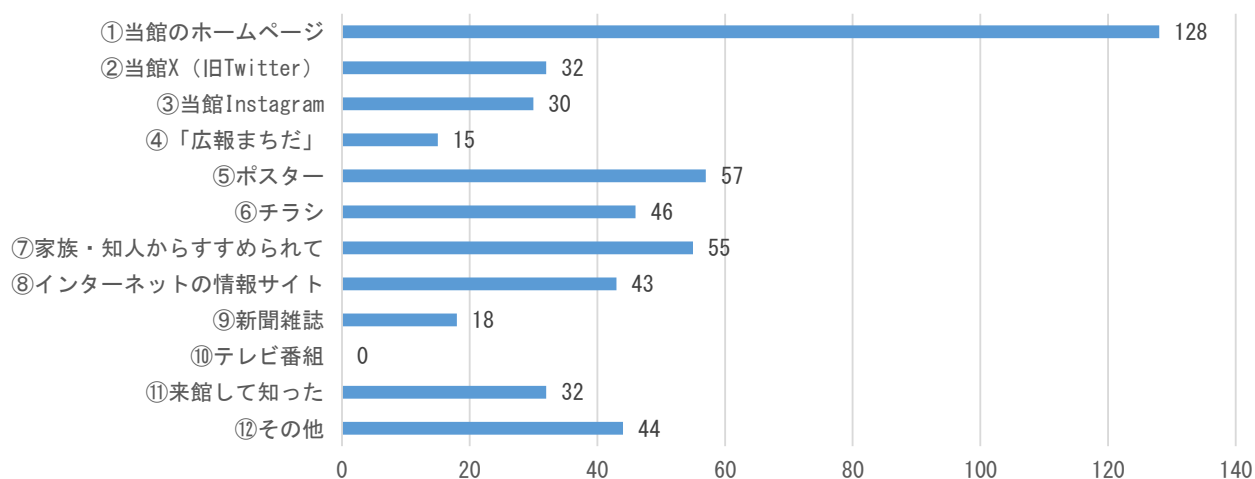
## 2. 住まい



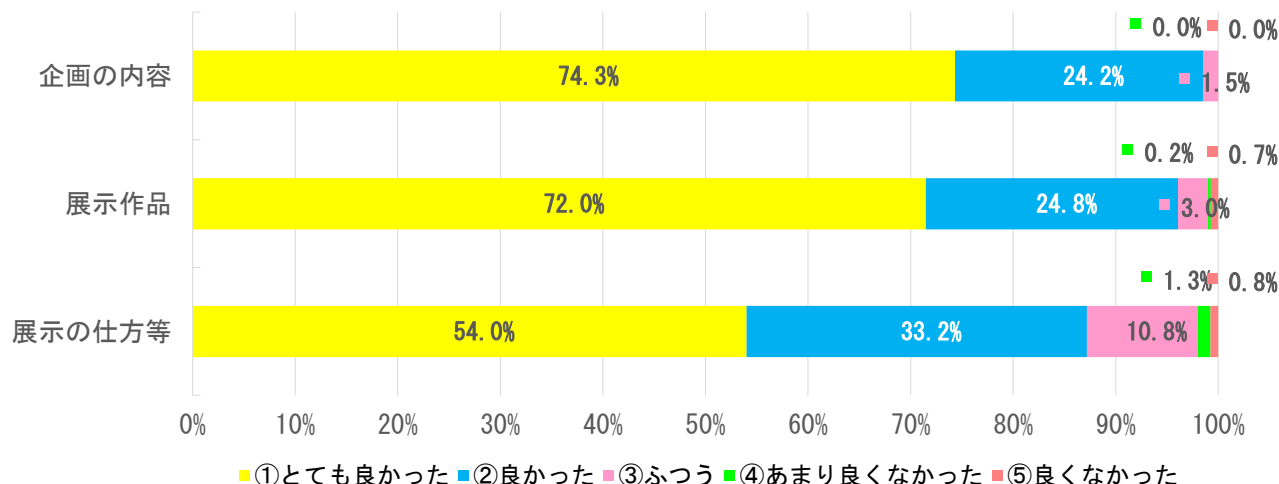
## 3. 来館回数（人数）



## 4. 展覧会情報の入手（人数）



## 5. 回答者の満足度



## 6. 主な意見・感想

- ◆モダニズムの流れが見られる展示、とても良かったです。原画や原本が数多く、色彩も良く残っていることに嬉しく思いました。
- ◆戦時中の苦しみ、体験を伝える作品から戦間期の明るい狂乱の時代を描くもの、そして戦後平和を願う作品が混在する展示は斬新で面白い。
- ◆この時代の作品について、今まで思っていなかった戦争の影という視点を持って展示されていることに興味を持ちました。はなやかさだけでなく、人々の心に重く静かにたまっていく現代にも通じる戦争や社会問題をみつめ直す機会になりました。
- ◆コレクションの素晴らしさに驚きました。
- ◆知らない作品たくさん知れて良かったです。
- ◆市立美術館とは思えないとても充実した展示でした。
- ◆広告からしてすばらしい絵で期待ふくらみかんしょうしてきたい以上でした。
- ◆学芸員による解説がわかりやすく参考になった。
- ◆キャプションのフォントや大きさが非常によみやすいです。

(以下は要望等の意見)

- ◇版画について自分は素人なので技術の説明を図説キャプション等で入れてくれると、さらに来館者の理解が深まると思います。
- ◇展示物の高さがもう少し低いと子どもにも見せてあげられるのに、と残念に思いました。
- ◇回線がすごく悪いと思います。ここはもう何回目ってきましたが、携帯の電波はなかなかとどかない。作品に関する資料が探す時もできません。館内の無料Wifi設置又は回線改善ほしいです。
- ◇ロッカーが不足と思います。全部ふさがっていました。シニアサービスデーだから？大きい荷物の方が気の毒でした。
- ◇送迎バスが定員になり乗れませんでした。シニアの日は増便していただけるとありがたい。100円の有料でかまいません。
- ◇浮世絵と海外の作品とのコラボが見たいです。
- ◇今後シャガールの展覧会を是非催して欲しいと願っています。

2025（令和7）年度 国際版画美術館 事業報告書【展覧会版】

展覧会名	日本の版画1200年―受けとめ、交わり、生まれ出る			担当者名	町村悠香・宮崎黎		
会期	2025年3月20日（木・祝）～6月15日（日）			開催日数	76日間		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	日本現存最古の印刷物である無垢浄光大陀羅尼經（むくじょうこうだいにきょう）から、仏教版画、絵手本や画譜、浮世絵、創作版画、新版画、戦後版画、現代版画へと連なる約240点を当館収蔵品から厳選して紹介。特に他の東アジアの国々とのつながりにも注目し、文化交流の視点で日本の版画1200年の歴史を紹介した。						
ねらい・対象	2024年に発行された新札の絵柄に葛飾北斎の作品が使われるなど、浮世絵を代表とする日本の版画はナショナルなイメージ結びつきがちだが、浮世絵も西洋や中国の影響を受け生まれたものである。文化交流の視点で当館収蔵品をキュレーションすることで、1200年に及ぶ日本の版画史を新たな切り口から語ることを目指した。						
関連催事	催事名		開催日	タイトル	講師等	参加者数	
	記念講演会		5月18日（日）		山口晃氏（画家）	130人	
	こどものための鑑賞会		4月16日（水） 5月17日（土）	0歳からの版画美術館！親子で鑑賞 & 版画あそび	富田めぐみ氏 （NPO法人赤ちゃんからの アートフレンドシップ協会 代表理事）	21人	
	子ども講座 ―みてみてつくろう―		3月29日（土）	思いをこめて☆版画でふやす《大切なもの》	杉浦幸子 （武蔵野美術大学教授） 上村牧子 （普及担当学芸員）	15人	
	復刻浮世絵版木摺り体験 2025		5月24日（土）		渡邊利江 （普及担当学芸員）	20人	
	プロムナード・コンサート		6月14日（土）	日本の版画と若き響き	桜美林大学芸術文化学群 玉川大学芸術学部	175人	
	ギャラリートーク		①4月5日（土）、 5月17日（土） ②3月23日（日） ③3月30日（日）、 5月3日（土）	①1～3章 仏教版画、浮世絵を中心に ②3～5章 新版画、創作版画を中心に ③5～7章 創作版画、戦後・現代版画 を中心に	①宮崎黎 （担当学芸員） ②滝沢恭司 （新潟市美術館特任館長・ 元担当学芸員） ③町村悠香 （担当学芸員）	181人	
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	800 円	400 円	無料	・初日：3/20 ・開館記念日：4/19 ・シルバーデー（満65歳以上無料）：3/26、4/23、5/28			
観覧者数	有料計		無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、中学生以下
	8,624 人		3,657 人	12,281 人	11,149 人	802 人	330 人
	目標値		12,903 人				
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源		
	5,658 千円		1,493 千円	1,223 千円	― 千円		
事業経費	・講師謝礼 ・事業協力謝礼 ・著作権使用申請委託料 ・設置・撤去委託料 ・作品額装委託料 ・広告・宣伝委託料 ・ポスター等作成委託料 ・ディスプレイ作成委託料 ・イベント企画運営委託料				45 千円 147 千円 ― 千円 720 千円 697 千円 1,017 千円 3,501 千円 1,188 千円 ― 千円	7,315 千円	
主な広報・取材等	【テレビ】「日曜美術館 アートシーン」（NHK Eテレ）他 【新聞・雑誌】『女性自身』、『江戸楽』、『散歩の達人』、『月刊美術』、『BM（BIJUTSU NO MORI）』、『新美術新聞』、『日本教育新聞』、『東京新聞』他 【ウェブ】「美術展ナビ」、「美術手帖」、「Fashion Press」、「IM（インターネットミュージアム）」 他						



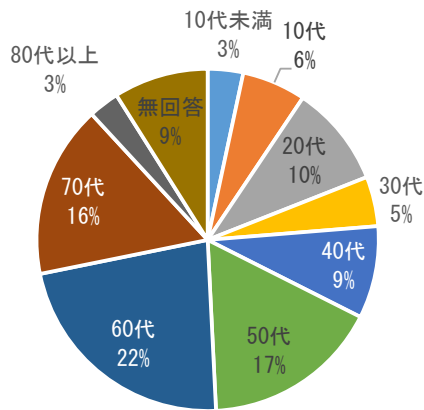
	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
アンケート結果	447 件	5.8 %	22 %	63 %	97.3 %	97.5 %	80.8 %
	主なご意見	別紙参照					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	<p>2023年1月頃に展覧会のテーマを決定し、章構成と出品作品についての検討を開始した。1200年という幅広い時代を扱うため、担当2名だけでなく、近代版画専門の学芸員・滝沢恭司と浮世絵専門の大久保館長も加わった協力体制を作り、月1度程の企画会議を開いて準備を進めた。</p> <p>1章に関しては、元当館学芸員で仏教版画を専門とする佐々木守俊氏（清泉女子大学教授）が調査段階から関わった。佐々木氏の協力のもと、近年はまとまった展示の機会が少なかった仏教版画コレクションを改めて調査し、展示に結びつけることができた。特に「印仏」は子ども講座のテーマになり、来館者の評判もよかった。</p>					
	作品選択	<p>企画会議で協議のうえ以下の7章構成とした。「1章 版と祈り—日本版画のあけぼの」「2章 出版文化の隆盛—拡散するイメージとその受容」「3章 変わり続ける浮世絵—舶来文化の吸収と再創造」「4章 創作版画と新版画—両洋の眼・浮世絵の超克」「5章 版画誌がつなぐネットワーク—日本と中国の「創作版画」」「6章 占領下における新しい版画の胎動—中央と地方、モダニズムとリアリズムの往還」「7章 「国際版画展」の季節—「版画の国」を広め育てる」。</p> <p>章構成を決めた後は、章ごとに分担して作品選定を行った。第1章～3章は宮崎（1章は佐々木氏協力、3章は大久保館長協力）、4章は滝沢、5～7章は町村が担当した。多様な主題、形状、技法、出自を持つ作品を選ぶことで、ボリュームはあるが飽きさせない展示内容とすることを目指した。また、もの、イメージ、人の交流の軌跡が分かりやすくなることを心掛けた。</p>					
	図録	<p>B5変形192頁の展覧会図録を作成した。作品解説は学芸員3名と館長、佐々木氏で分担して執筆した。佐々木氏には仏教版画のコラム執筆も依頼し、創作版画と中国との文化交流に関するコラムは陳琦氏（当時・東京大学博士課程、現・廈門大学助理教授）に執筆を依頼した。表紙は当館収蔵庫で実際に作品を並べて撮影した写真を使用し、本展が収蔵品で構成されていることを視覚的に伝わるよう工夫した。</p>					
	広報	<p>歌川広重の『東海道五十三次之内（保永堂版）』をメインビジュアルに使用し、市内公立小中学校、各地区センター、全国的美術館など約700カ所に広報物を送付した。広報画像には広重のほか葛飾北斎、川瀬巴水、棟方志功など当館を代表する名品と、蘇州版画、版画誌『現代版画』など文化交流の軌跡が分かる隠れた逸品の両方を使用した。これにより名品を楽しみたい層と、版画史の奥深さを知りたい層の両方にアピールしようとした。</p>					
	宣伝	<p>関心に添ってターゲットिंगがしやすいFacebookを活用して有料広告を出稿した。アンケートによると、各種のウェブ経由で展覧会情報を知りに来館した者のほか、家族・知人からの口コミによる来館者が多かったのが特徴だった。来館者数は会期全体で安定して推移し、会期半ばでNHK Eテレの「日曜美術館 アートシーン」で取り上げられたことで、会期末に向けて入場者数が増加した。</p>					
	ディスプレイ	<p>和本や版画誌など冊子体の作品が多く、展示レイアウトや設営作業を工夫する必要があった。展示ケースを用いて自然な導線を確認しようとしたが、一部には導線が分かりにくいという声もあった。解説パネルは丁寧な内容を心掛けたが、歓迎する声ともう少し短くてよいという声に二分された。キャプションの文字サイズの小ささを指摘する声が散見されたので、今後に生かしたい。こども向け解説パネルを各章に1枚以上つくり、鑑賞の手助けとなるように作品の見どころを解説した。学生や一般客にも好評だったため、今後も継続していきたい。</p>					
	イベント	<p>山口晃氏の講演会は人気で予約開始とともに満席になり、当日も大いに盛り上がった。こども向けイベントを積極的に開催し、こどものための鑑賞会、子ども講座—みてみてつくろう—（普及担当が実施）は、どちらも定員に達した。担当学芸員によるギャラリートークは企画、作品選定に関わった各学芸員が自分の担当パートを中心に話すことにし、合計5回行うことができた。また、当館と同じ美術館課の整備担当が企画したイベントとの協同企画として、展覧会出品の浮世絵作品をモチーフとしたイラストをネルノダイスキ氏に作成していただいた。同イラストについては、展覧会関連事業として美術館内でも掲示をおこなった。</p>					
	団体見学・学校対応	<p>日本の版画史を通史的に理解できる機会なので、積極的に大学への団体見学の呼びかけを行い、主に美術大学の版画研究室が団体で来館した。5校(女子美術大学、東京造形大学、多摩美術大学、実践女子大学、筑波大学)8件約300人が訪れ、若年層へのアプローチと教育機会の提供につながった。</p>					
その他特記事項		<p>本展は開館以来当館で学芸員を務めてきた滝沢恭司（現・新潟市美術館特任館長）が関わる最後の展覧会となった。企画会議では開館以来の展覧会や当館の顕著なコレクションについてアドバイスを受け、3万3000点に及ぶ当館のコレクションを活用していくには学芸員の長年の蓄積が必要であることを改めて認識した。今年度から収蔵品管理システムの運用が始まったため、システムを活用しながら、学芸員間でのコレクション知識の継承をおこなっていききたい。</p>					

## 2025（令和7）年度 国際版画美術館 アンケート集計結果【日本の版画1200年】

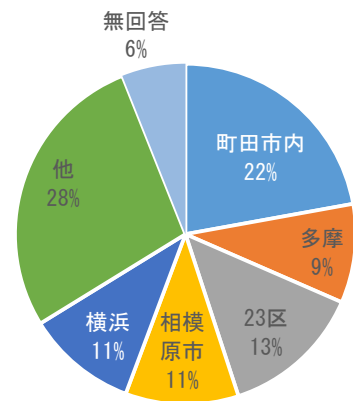
開催期間：2025年3月20日（木）～6月15日（日）

回答者数： 447 人（総入館者数：12,281人 アンケート回収率： 5.8%）

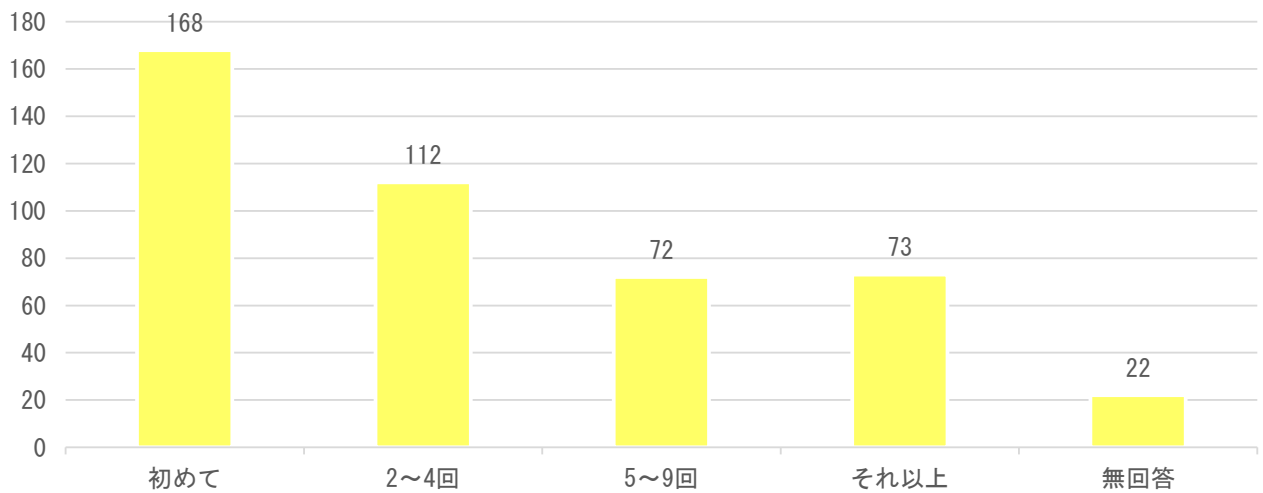
## 1. 年齢層



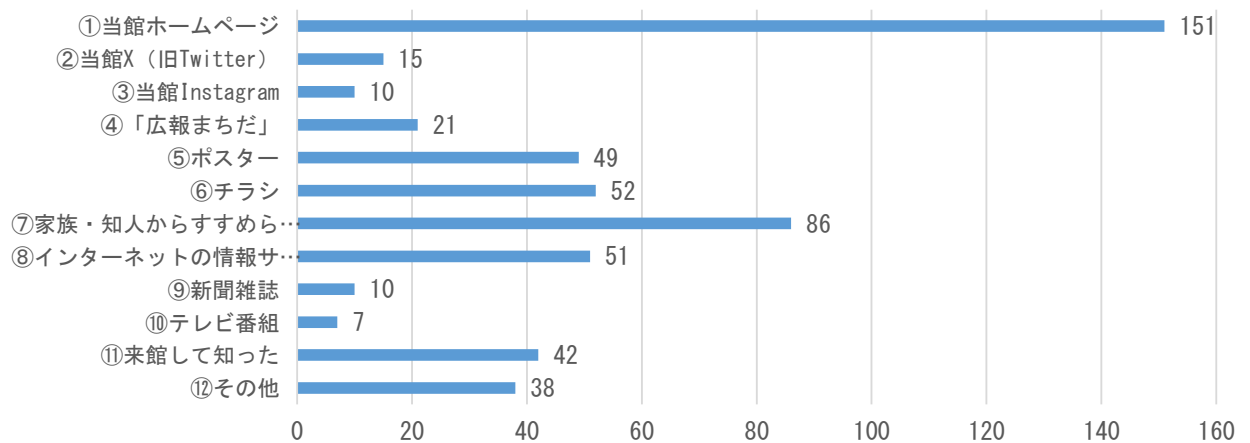
## 2. 住まい



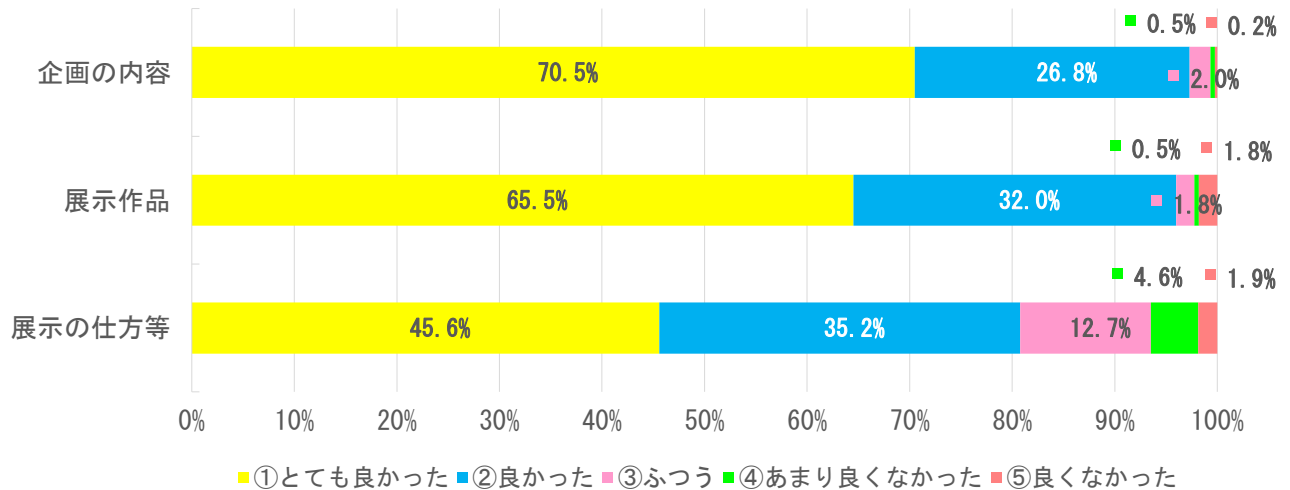
## 3. 来館回数（人数）



## 4. 展覧会情報の入手（人数）



## 5. 回答者の満足度



## 6. 主な意見・感想

◆日本の版画の歴史が全て見られるような時代ごとの展示には驚かされた。これまで何度も見た作品も多かったが、有名版画家の作品で見たことのなかった作品もあり興味深かった。

◆日本版画というと浮世絵をメインに展開されることが多いですが、印仏（版画のはじまり）から、各国の版画と合わせて歴史を辿れることで、各国の影響のあり方や「版画」というジャンルに対する見方が変わったように思います。

◆たまたま町田駅でチラシを見つけて、6才・5才の子供達といっしょにフラッと立ち寄ってみました。久しぶりの美術鑑賞timeに母は満足でした。絵画教室に通う息子は版画をさせてもらったこともあるので興味を持って見てくれた様子でした。子連れで駆け足でしか見られませんでした。ほど良いボリュームで

とても楽しませていただきました。また訪れたいと思います。

◆町田市に住んでいながら初めて来ました。とても良い企画でまた来たいと思います。

◆時代を横断して一度にみられるのがよかった。大きさ（「こんなに大きいのか」「小さくて細密」など）が

わかるのが現物を見る良さだと改めて感じました。

◆大胆なテーマと詳細な調査で、さすがだと思いました。ギャラリートークも楽しく、鑑賞が何倍も楽しくなりました。

◆学校作品やほかのさくひんやいろいろさくひんとかがきれいで、まだ二回しか行っていないので、たくさんいったりしたいです。ほかのさくひんがかざられるのを楽しみにしています。きょうのえはすごかったりしたりしました。かざりかたやさくひんを見えやすいようにライトが上にあるのをきずきました。さくひんにせつめいがかいてあったりして、とてもべんりだと思いました。

（以下は要望等の意見）

◇撮影シャッター音が気になりました。他館ではマスキングテープで音が出るところをふさぐようにしているところもあります。写真撮影OKの作品が多いのはうれしいのですが、今後ご検討いただけたら幸いです。

◇テーマも内容もとてもよいのですが、説明したいことが多すぎて、読む方に目がいて疲れてしまいました。

大きいパネルがみやすかったのも、まとめてもよいかもです。

説明の文字が小さい。会場は暗く、照明の関係か影になりやすいので、老眼には厳しい。

1 版画講座

版画工房・アトリエにて開催される版画の講習会。 様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的にしています。  
子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概 要（敬称略）	実施日程	会場	定員	参加人数	うち小中学生	参加費
1	銅版画一日教室①	一般 （高校生以上）	版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。12×16cmの銅版を用い、ドライポイント技法で作品を制作。下絵は各受講生が持参。様々な方法で描きこむことにより深みのある作品作りを目指す。講師：馬場知子（版画家）	6/13(金) 10:30～16:30	版画工房	10人	10人	—	4,000円
2	銅版画一日教室②			6/14(土) 10:30～16:30	版画工房	10人	10人	—	4,000円
3	リトグラフー日教室①	一般 （高校生以上）	各自用意した下絵をもとに、単色のリトグラフ作品を制作する。初心者から参加可。受講生は講師のアドバイスを受けつつ、様々な描画材を使ってアルミ版に描き込むことで、リトグラフならではの表現を体験する。講師：小森琢己（版画家）	9/26(金) 11:00～16:00	版画工房	8人	（実施前）	—	4,000円
4	リトグラフー日教室②			9/27(土) 11:00～16:00	版画工房	8人	（実施前）	—	4,000円
5	子ども講座① 「1枚だけの版画、水彩モノタイプ」	小学生とその保護者	アーティストを講師に招き、子どもと保護者が美術館で制作を楽しむ。アクリル板に水彩絵の具で描き、プレス機で印刷する「水彩モノタイプ」という版画技法で色鮮やかな多色刷り作品を制作した。講師：常田泰由（東京造形大学造形学部美術学科助教）	5/3(土) 13:30～16:00	アトリエ	16人	16人	8人	1,000円
6	夏期子ども講座① 「版画でつくる 自分ワールド！」	小学3～6年生	東京学芸大学の学生ボランティアと指導教官が企画・指導をおこなう。受講生が持参した下絵をSP板※に転写し、彫刻刀で彫って凸版をつくる。これを回転版画※の技法で紙とTシャツに印刷した。講座終了後、子どもたちの作品と指導にあたった学生の版画作品を市民展示室で展示した。講師：清野泰之（東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授） ※SP板（樹脂と石膏を組み合わせた版画用の素材。彫刻刀で簡単に彫ることができる） ※回転版画（1枚の正方形の版を、赤・黄・青の順で色を変えたと同時に90度回転させながら刷り重ねてゆく版画。刷るたびにモチーフが場所を変えて現れるとともに、様々な組み合わせで色が重なる部分が生まれ、多彩な色彩の作品が仕上がる。）	7/26(土) 10:30～15:30	アトリエ 版画工房	15人	14人	14人	2,000円
7	夏期子ども講座② 「版画でつくる 自分ワールド！」			7/27(日) 10:30～15:30	アトリエ 版画工房	15人	14人	14人	2,000円

2 学校教育への協力

町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。  
版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概 要	実施日程	会場	参加人数	参加延人数	うち小中学生	参加費
1	版画講座	町田市立鶴川第二中学校 美術部	美術部員7名（2年生）が参加。学芸員の指導のもと、部で1枚の原稿を作成し、スクリーンプリントで各自持参したTシャツに単色で印刷した。色紙などにも印刷し、支持体の素材や色によって異なる仕上がりや、刷り方のテクニックを知り、スクリーンプリントの表現の特徴を学んだ。	8/20(水) 10:15～16:00	版画工房	7人	—	7人	500円
2	版画講座	町田市立南大谷中学校 美術部	美術部員25名（1～3年生）が参加。スクリーンプリントの原理や制作方法を学んだ後、学芸員の指導で美術部のロゴとイラストを黒いTシャツの背中に白インクで印刷し、お揃いの「部Tシャツ」を制作した。終了後は企画展を鑑賞。	8/22(金) 10:00～14:30	アトリエ	25人	—	25人	2500円 （部で一括）
3	版画講座	町田市立町田第二中学校 美術部	美術部員15名（2年生）が参加。学芸員の指導のもと、部で1枚の原稿を持参し、スクリーンプリントで部Tシャツをつくる。各自持参したTシャツに単色で印刷したほか、色紙などにも印刷し、支持体の素材や色によって異なる仕上がりや、刷り方のテクニックを知り、スクリーンプリントの表現の特徴を学んだ。	8/23(土) 10:15～16:00	アトリエ	12人	—	12人	500円
4	体験学習	学校法人角川ドワンゴ学園 N中等部町田キャンパス ・橋本キャンパス合同 1～3年生	版画担当との連携事業。地域の施設に訪れ、実体験・実見をすることで、社会とのつながりを経験するほか、課題解決を目的とした授業に協力する。事前学習として学芸員の業務を調査し、自分の作品にキャプションを付ける授業があり、版画担当学芸員がキャプションの内容を指導した。来館授業では、企画展・特集展示の鑑賞（学芸員による展示解説）を行った後、浮世絵版木の技法や道具についての解説（実物展示と動画を使用）と、復刻浮世絵版木の摺り体験を実施し、学校が持参した和紙に摺る体験をおこなう。	9/18(木) 10:30～12:30	講堂	20人 （予定）	—	20人 （予定）	無料
5	教員研修会等への協力	町田市中学校教育研究会 美術部	夏季実技研修会開催にあたり、会場利用等に協力。【講師：工芸担当学芸員。美術科教員が参加】	8/23(水) 13:30～16:30	アトリエ	11人	—	—	—
6	教員研修会等への協力	町田市小学校教育研究会 図工部	夏季実技研修会開催にあたり、版画担当学芸員と普及担当学芸員が内容について助言し、企画、進行、会場利用に協力した。図工科教員が参加。【研修会内容：①企画展「版画ってアートなの？」において鑑賞教育の体験とグループワーク ②復刻浮世絵版木の摺り体験】	8/8(金) 9:30～12:30	企画展示室 アトリエ	25人	—	—	—

3 作品展

講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。 作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。

No	事業名	対象	概 要	会 期	会場	出品状況	来場者数	うち小中学生	観覧料
1	夏期子ども講座作品展 「版画でつくる 自分ワールド！展」	どなたでも	夏期子ども講座（内容裏面参照）の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。講座で制作した版画のほか、下絵用紙や制作についての感想文も展示。講座の様子をまとめた動画や制作手順の解説パネルも設置した。紙作品を連結してタペストリーのように展示したり、部屋の中央に天井から吊り下げたファンが揺れるよう扇風機で風を送るなど、楽しく作品鑑賞ができるように工夫した展示方法が好評だった。	8/5(火)～9(土) <5日間>	市民展示室	受講生28人 (112点) 大学生12人 (28点)	352人	88人 (推計)	無料

4 イベント、コンサート

気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概 要（敬称略）	実施日程	会場	定員	参加人数	うち小中学生	参加費
1	復刻浮世絵版木摺り体験2025	どなたでも 当日先着順	「日本の版画1200年-受けとめ、交わり、生まれ出る」展(3/20～6/15開催)関連事業。 伝統的な道具と材料について解説を聞いた後に、それらを使って浮世絵(黒のみ1版)を摺る。版木はオリジナルの浮世絵をもとに、墨版だけで絵柄が摺れるよう新たに描き起こして作ったもの。山桜の板を使用し、浮世絵の職人(彫師)に依頼して作成している。当日は整理券配布前から定員を超える列ができたほか、体験前の解説によって深く理解できたという感想があり大変好評だった。	5/24(土) ①13:30 ②14:30 各30分	アトリエ	①10人 ②10人	①10人 ②10人	①1人 ②0人	100円
2	プロムナード・コンサートⅠ 「日本の版画と若き響き」	どなたでも	「日本の版画1200年-受けとめ、交わり、生まれ出る」展(3/20～6/15開催)関連催事 町田市内の大学で音楽を学ぶ学生による声楽、器楽。 ①玉川大学芸術学部音楽学科 プロコフィエフ:ピアノソナタ 第6番 イ長調 作品82 第1楽章、 P. タファネル:「ミニヨン」によるグランドファンタジーより、 ヨハネス・ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78第1楽章 ②桜美林大学芸術文化学群音楽専修 松岡邦忠:「朝風と雲」「海風と旅人」、 セヴラック:「休暇の日々から」第一集より “古いオルゴールが聞こえるとき”、 ドビュッシー:「小組曲」より“メヌエット”(ピアノ連弾)、ほか	6/14(土) ①13:00 ②15:00 各30分	エントランス ホール	①100人 ②100人	①102人 ②73人 立ち見含まず	①2人 ②0人	無料
3	プロムナード・コンサートⅡ 「連弾で奏でる音色のアート」	どなたでも	「版画ってアートなの？」展(7/5～9/21開催)関連催事 演奏者:ピアノデュオ林崎ハーゲマン(林崎祥子、ミハエル ハーゲマン)(ピアノ連弾) ヨハン・シュトラウス:ワルツ「春の声」Op.410、 ミハエル・フランク:ハーゲマン:「スクランブル交差点」(1998)より 1. 青:押し合いへし合い、 ジョン・パルマー:3つの想像上の会話 (2013) Nr.1、ほか	9/6(土) ①13:00 ②15:00 各30分	エントランス ホール	①100人 ②100人	①71人 ②73人	①10人 ②10人	無料

5 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概 要	実施日数	会場	利用者数	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供。 各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できる。 毎週木曜、日曜、月2回の火曜に実施。 9時30分～17時30分(9時30分～13時30分と13時30分～17時30分) 定員:銅版画 10人 リトグラフ 6人 スクリーンプリント 8人 木版画 2人	年間123回実施	<版画工房> 銅版画 リトグラフ  <アトリエ> スクリーンプリント 木版画	4～8月(53回) 1504人  <内訳> 銅版画 744人 リトグラフ 338人 スクリーンプリント 318人 木版画 104人	半日: 1,250円 一日: 2,500円



2025（令和7）年度 国際版画美術館 展示計画

展覧会		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画 展示室 1・2	日本の版画1200年 —受けとめ、交わり、生まれ出る		3/20～6/15 【76日間】											
	版画ってアートなの？					7/5～9/21 【68日間】								
	連続講演：7回 （※全12回のうち2025年度分） 公開講習：3月開催							連続講演×7回						公開 講習
	新収蔵作品展											1/6～2/23 【43日間】		
	小中学校作品展											1/16～2/23		
常設 展示室	特集展示Ⅰ期 ふぞろいの版画たち —西洋版画のシリーズとステート		3/14～6/15 【81日間】											
	特集展示Ⅱ期 ドミエ、どう見える？ —19世紀フランスの社会諷刺					6/20～9/21 【81日間】								
	特集展示Ⅲ期 夢の江戸へ—美人画と歴史ロマン							9/26～12/21 【75日間】						
	特集展示Ⅳ期 はんが探検隊 —大きな版画の世界によこそ！										12/26～3/22 【68日間】			

展覧会活動について

企画展「日本の版画1200年—受けとめ、交わり、生まれ出る」入場者数：12,281人 ※詳細は資料を参照  
特集展示Ⅰ期「ふぞろいの版画たち—西洋版画のシリーズとステート」：入場者数：12,213人

美術館教育活動について

鑑賞会  
「0歳時からの版画美術館！親子で鑑賞&版画あそび」①4月16日（水）：9人 ②5月17日（土）：12人（※日本の版画1200年展の関連イベントとして実施）  
学校対応  
①4月18日（金）：134人（女子美術大学）②5月14日（水）：18人（東京造形大学）③5月22日（木）：35人（多摩美術大学）④5月28日（水）：32人（女子美術大学）  
⑤5月29日（木）：15人（東京造形大）⑥6月3日（火）21人（実践女子大学）⑦6月5日（木）19人（女子美術大学）⑧6月14日（土）24人（筑波大学）

連続講演について：【講演会×鑑賞会】ココがすごい！版美のコレクション。

第1回 10月18日（土）「幕末の風刺画を読む：パニックから生まれた江戸の笑い」大久保純一（当館館長）  
第2回 10月19日（日）「イタリア・ルネサンスの版画：視覚メディアの大変革」越川倫明氏（東京藝術大学教授）  
第3回 10月25日（土）「アジアの版画運動と日本：近代と現代の2つの渦」町村悠香（当館学芸員）  
第4回 11月 8日（土）「刻線の巨匠：デューラーとホルツィウス」藤村拓也（当館学芸員）  
第5回 11月22日（土）「ナポレオンの『エジプト誌』：エジプト学の礎を築いたフランスの国家事業」高野詩織（当館学芸員）  
第6回 12月 6日（土）「ネルノダイスキ流・版画の見かた」ネルノダイスキ氏（漫画家・イラストレーター）  
第7回 12月20日（土）「浮世絵というフィクション：特集展示「夢の江戸へ—美人画と歴史ロマン」の出品作を中心に」宮崎黎（当館学芸員）

2026（令和8）年度 国際版画美術館 展示計画（案）

展覧会		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画 展示室 1・2	収蔵品企画展①					6/27～8/30 【56日間】								
	収蔵品企画展②							9/12～11/23 【62日間】						
	連続講演：5回 （※全12回のうち2026年度分）		連続講演×5回											
	新収蔵作品展										12/5～2/23 【62日間】			
	小中学校作品展											1/15～2/23		
常設 展示室	特集展示Ⅰ期		3/27～6/14 【69日間】											
	特集展示Ⅱ期					6/19～8/30 【63日間】								
	特集展示Ⅲ期							9/4～11/23 【70日間】						
	特集展示Ⅳ期										11/27～2/28 【74日間】			

企画展観覧料の値上げについて

収蔵品企画展①：一般800円⇒900円 高校・大学生：400円⇒450円（※中学生以下：無料は変更なし）  
収蔵品企画展②：一般900円⇒1,000円 高校・大学生：450⇒500円（※中学生以下：無料は変更なし）

当館収蔵品を中心とした巡回展について 展覧会名「町田市立国際版画美術館所蔵 長谷川潔（仮）」

主催：東京新聞、開催館他 共催：町田市立国際版画美術館 特別協力：横浜美術館 出品作品数：140点程度（長谷川潔の版画100点、関連作家40点、関連資料等）  
会期・会場  
① 2026年7月11日（土）～ 9月13日（日） パナソニック汐留美術館  
② 2027年1月30日（土）～ 4月 4日（日） 久留米市美術館  
③ 2027年4月24日（土）～ 6月24日（木） 大山崎山荘美術館

## 2026年度 事業予定 【普及担当】

		定員	参加費(予定)
◆版画講座	創作講座 銅版画(10日間)	10人	¥30,000
	銅版画一日教室 ①	10人	¥4,000
	銅版画一日教室 ②	10人	¥4,000
	リトグラフー日教室 ①	8人	¥4,000
	リトグラフー日教室 ②	8人	¥4,000
	リトグラフー日教室 ③	8人	¥4,000
	リトグラフー日教室 ④	8人	¥4,000
	木版画一日教室<年賀状> ①	16人	¥3,000
	木版画一日教室<年賀状> ②	16人	¥3,000
◆子ども講座	子ども講座①(1日間)	16人	¥1,000
	子ども講座②(1日間)	16人	¥1,000
	夏期子ども講座①(講座1日間+作品展示)	15人	¥2,000
	夏期子ども講座②(講座1日間+作品展示)	15人	¥2,000

		参加者数	参加費
◆学校対象事業	版画講座 年5校程度	内容による	
	出張授業 年2回程度	内容による	

		来場者数	入場料
◆展 示	夏期子ども講座作品展	300人程度	無料
	第40回町田市公立小中学校作品展	15000人程度	無料

		利用者数	使用料
◆版画工房・アトリエの一般開放	年間120回	4000人程度	¥1,250

		来場者数	参加費
◆その他	版画制作イベント 年間2回	各回30人程度	無料
管理担当	プロムナードコンサート 年間2回	各回200人程度	無料
管理担当	ゆうゆう版画美術館まつり(友の会と共催) 2日間	5000人程度	無料